

～はばたきコース～

<大賞 1団体>

- 特定非営利活動法人 そらいろプロジェクト京都（京都）／30万円
「美容業界発信！障がいを持つ子への『スマイルカット』の輪を広げよう」

<p>団体概要</p>	<p>美容室を経営する中で、高齢者や障がい者など自分で美容院へ行くことの出来ない人達がたくさんいることを知り、そのニーズに応えるべく2008年から訪問カットの活動をスタートした。2009年には子ども達に散髪は楽しいとの思いを伝える前髪カット講座、2010年からは障がいを持つ子ども達への特性に応じたカットプログラムである「スマイルカット」を開始して活動の領域を広げてきた。</p> <p>理美容院に行きにくい福祉課題を抱える人達、また理美容院がそのような人達を受け入れにくい今の社会や業界を変えていくために、美容の面からバリアフリー社会を作ることを目的として、障がい児のニーズに応じたカットなどの直接支援と、講演・ヒーローショーなどによる啓発活動を行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、これまで当団体が実施してきた「スマイルカット」のプログラムをマニュアル・ツール化して、それを活用した美容師向けの研修を行うことで、全国に「スマイルカット」の輪を広げる事業である。</p> <p>まず、10名の子ども達にモデル事業の利用者になってもらい、一年間かけてスマイルカットを行い、子どもが変化する様子を映像でまとめながら、専門家の監修でマニュアルやツールを制作する。その後、「スマイルカット」の空白地の都道府県を中心に美容師向けの無料出張講演会を実施する。</p> <p>あわせて、障がいのある子が一人で椅子に座りカットできるようサポートする活動を伝える星髪戦士ピースマンのショーを一般市民向けに実施し、知的障がいや発達障がいを楽しく啓発していく。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、障がいのある子どもの散髪という必要度が高い社会課題に特化して、実践的な事業を組み立てている点が、先進性・創意工夫・社会性・実現性・資金計画の妥当性の面で大きく評価された。また、スマイルカットを一団体で実施してきた段階から、全国に広げる段階にステップアップすることが新規チャレンジ性でも評価された。さらに、子育て中の理美容師のソーシャルビジネスを目指すことや、法制度化の実現を見据えている点から、今後の効果と発展性も大きく期待できる。</p> <p>このようなニーズがあることを社会に知らせる価値としても高く、幅広い子育て課題を発掘し光をあてる本アワードの主旨に合致しており、大賞団体としてふさわしい内容である。本アワードの助成を受けて、スマイルカットを広げる活動を進めることで、本事業が全国へと大きくはばたくことを期待したい。</p>

<優秀賞 2団体>

- 特定非営利活動法人 キッズ&子育て応援隊 MerryTime (大阪) / 30万円
「地域がつながる“子ども村わくわくマルシェ”」

<p>団体概要</p>	<p>1994年に、就園前の幼児を親子分離して預かる「わんぱくらんど」からスタートした団体である。年間100組以上の親子が集い、現在までで修了生は延べ1600人、子育て中の女性を中心に50名の登録者で運営する事業となっている。</p> <p>さらに、2012年からは、小学生の生きる力を育む放課後の居場所「わくわく子ども村」を協議会形式で立ち上げ、2013年度からは自主事業として実施し、多様な世代の子どもが集い・遊び・食べる場所を提供している。その他にも、親支援や女性の居場所づくりなど、親子双方向からの支援を展開し、地域ぐるみで子どもを育てるシステムの構築を目指している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、地元で理解を得て、地域ぐるみで子どもを育てるためのイベント「子ども村わくわくマルシェ（仮）」を行うものである。</p> <p>地域の総合子ども館を2年間運営する中で、商業地域で子どもの姿がほとんどなかった箕面船場地区において、存在は認知されたが、批判も聞こえてきた。そのような地域で子どもを育てるために、NPO・地元のお店・大人・子どもなどが一緒に取り組めるイベントを実施しようというものである。</p> <p>具体的には、11月開催に向けて、お店の開拓から実施まで子どもとスタッフが一緒に行い、当日は、10～15の出店、100～200人の参加者を目標とする。子ども達がイベントを作る過程を体験し、地元の事業者や店舗などの地域の大人と関わることで生きてきた社会勉強となり、自ら考える力やたくましく生きる力をつけることをねらいとしている。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、子どもが主体となって地域とつながるイベントを展開する活動であり、創意工夫や実現性がある。</p> <p>運営してきた子ども館から見えた課題の克服を目的としたもので、団体設立以来20年をかけて培ってきた地域の個人・団体との協力関係もあり、共感と市民参加の面でも高く評価された。大人がお膳立てした形ではなく、子どもが準備から関って苦労や失敗もプログラムの一環として計画している点も特色がある。</p> <p>地域との段階的な連携やシルバー世代のボランティア制度も想定していることから、本アワードの助成を起爆剤にしてもらい、単発のイベントで終わらず今後も継続・発展する一助となることを期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ
(兵庫) / 30万円

「孤立し困難を抱えたシングルマザーと子ども達の居場所づくり、
支援と仲間づくり事業」

<p>団体概要</p>	<p>女性の人権の擁護と男女平等社会の実現を目的に1992年に発足した団体である。阪神・淡路大震災発生直後には被災女性の支援を行い、電話開設をするとDV相談が多かったため、その後はDV被害女性と子どもの支援を主な活動とする。2005年にはDV被害女性と子どものための緊急一時保護施設のシェルターを開設、2007年に特定非営利活動法人格の認証を受けた。</p> <p>具体的には、DV電話相談・面接相談・同行支援、シェルター運営、DV啓発講座とともに、中高生を対象にデートDV防止授業の実施などの多岐にわたる活動を行う。シングルマザーの会の毎月開催や居場所づくりにも取り組みを広げている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、シングルマザーと子ども達に安心できる居場所を提供し、そこで子育て支援や子どもの学習支援、親子の楽しいイベントを開催するものである。</p> <p>シングルマザーには、鬱や対人恐怖のため、地域から孤立して暮らす場合も多く、子ども達も学習困難や対人関係の悩みを抱えている。生活再建には、孤立感の解消とエンパワメント(本来の力を取り戻す)が効果的と痛感して、本事業を企画した。</p> <p>具体的には、シングルマザーと子どもが安心できる居場所・支援の拠点として2013年10月に開設したWACCA(わか—women and children care center)において、月・金曜日の夕方に小学生3～6年の学習支援を行う。また、6月に母子30人のお泊り会、12月に母子35人の親子クリスマス会を実施することで、親子ぐるみの仲間づくりを支援する。</p>
<p>講評</p>	<p>当団体は長年女性のエンパワメントに尽力しており、埋もれていた問題を掘り出してきた実績がある。本事業は、今まで積み重ねてきた活動があったからこそ出来る先進性・社会性の高い内容であり、1年間で女性延べ1200人、子ども延べ400人の来所を目指す壮大な目標ではあったが、実現性が高いと評価された。</p> <p>シングルマザーと子どものための拠点は全国的にも少なく、非常に先駆的な取り組みではあるが、行政機関からの支援はない現状があるため、本アワードを助成することによって社会への問題提起もしたい。このような場の必要性や効果が理解されることによって、様々な支援が量的にも質的にも波及・発展し、他の地域にも動揺の活動が広がっていくことを大いに期待したい。</p>